

• 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 JAPAN



耻辱苦行錄

三



1261  
3

諸道社耳世間猿

二之卷

目錄

一回

ゑりとるをかみよはれの雨今り  
わくとて移玉さまとき  
小比丘尼がほよ難力  
迷う様ハ町人の奥れも



二回 水也ハゆふかい経業のワタ

以てあへき廢帝の足をも  
家合小月をもどり人相も  
大津ハ所のお水也

三回

莊もと百までおそれも  
どこぞがりいよ乃まやめ  
ひじがりの卒が婆小町も  
尻もつまぬあれの想嫁

一巻章ハ刀立ト相懸の雨會

御三國者皆凍烈を希とす言ふ惜すとへおけとが  
の下も浮うとて鷹の大おが旅さへねきてゆる。へ我  
ひよらと云はるもと公卿のほともかくこそ一轟毛  
ケ戦場の毛毛としゆのほのほの毛のせとぞもあけても  
ゆのたう。素ひに事もあらば師もれつてもあけても  
余裕てのまぐるが秀川のめぬちの塞。せよよにまう  
せぬどとの帝ゆのをとど。あまく天宮もろはる所す  
たとわじや。一来は師が経業武彦坊が太工をば美術ま  
の藝術をこもれんが前人百姓やど者う今いざるまでも

林ざちのすすむものあじづるもじよしにまはれとやひど  
木の新稿院より場主のこけ難い清てあり。ゆのほ葉井觀者  
まつへ所今三百步一あり。ゆのもの廣ひひがき善也のゆうと  
ひあくそー者こそ。八百町に建はまつ。法多の山裏  
神社仏閣の寺廟へり。而よりて車一ねぐ合は一あしとも  
傷危れもね大瀧木を居大叶木小川わ木屋養房とらでも  
がむ大のまと冠りて。今氣の大きさの木屋房のぞと  
アキアキ重構と下緒の木。かじりゆうと木舟。そとよん初  
ての丸わと見て。あがめきの小者一人。風呂を包りきて  
ま處づけ。若室病儀の外の籠やもどろ底よりていあ不  
達のやうゆうたの。ぬあまきの不ままでさくねの辻じ  
く。三巡のや作ふね。下そがれ甚角。へり。毎日三度。作  
あした。と。雨んせ。じ。社と。祭り。やれ。も。濁田川の沿。壇  
アラ。初めを。も。あ。ける。も。と。祭と。祭と。おう。取改々  
ひ。うそ。木。の。あ。そ。を。う。ご。お。き。と。わ。く。か。そ。わ。り。お。祭。安。布。あ  
そ。と。た。ソ。シ。木。の。あ。そ。を。う。ご。お。き。と。ハ。ヤ。ま。と。禮。牛。れ  
捕。春。う。場。ま。け。柳。こ。き。ま。じ。ち。け。り。最。ど。や。黙。う。ま。こ  
ぎ。ぬ。も。ち。よ。せ。う。か。ぐ。う。ま。ん。む。わ。か。と。り。す。ぞ。ば。う。木。角  
日。わ。う。彦。み。の。用。え。ひ。一。萬。て。ぐ。ま。ま。と。二。千。り。木。ま。く  
木。を。や。う。く。と。ほ。金。て。あ。三。宝。と。う。ほ。人。幸。す。ほ。ま。と。御  
様。家。ま。れ。富。木。分。す。ば。又。金。う。と。内。へ。つ。て。ひ。ま。ま。と。ま。と。  
様。の。考。と。ご。ざ。う。傷。み。合。船。と。お。き。と。船。舟。は。あ。づ。く。と。内。あ

とやわらかで下を向くといひへども。今の大に十二に小比立尼の日  
ノトアモトゲなるが居てたのもせど。奥より旅のむかこちへ這  
てゑえやうとどきのゆゑとつりへ出で候る金とびのはなに乃  
尼屋もくのくさうてかうと極げけもひよ御かすぱりふのうく、  
家萬よ行かねまくやうなうとましま法てあるのいふまの事よ  
あまくとがとせかく接くせば尼うねてゆく入籍まであ  
らふとひづぬをこに又抜ぬけぬまへ津井ようて居るまの  
ああぐれまねえむ尼称は後途方ひふとて居るまの  
尼の毒よあひ薙のをよあやめだよあも當熱あつまつ  
はまともせじざる。アヅマナ屋と高むれとてあす  
天御とあてしにテ世出なまねきとおとけと御力めおを  
をもとては祭也角川うきくのゆくとあとやあせう。もうちよハ  
止むあまくかはんかと上わがむがれとへ端ぢうまがまちと  
奥よあひ様の隠る所あくとばまみのきくとほくうる御父  
とくかの金じくとせす内を寺のへおもとみの隠てちう  
ももと月ハまもととあもとはせゆくとじくの尼がどく  
て茶湯のりくすをばの尼がどくとじくの  
あひたま。一筋にキヤ松がとつてそんがはせす。あまも  
緒ひそ模よドヨセと本丸。あくまきはととをあせ。下  
部れをお寄行院のかく見えてさあも茶湯とわてせりハ

宗様の御食事。おもてなしはよし。おもてなしはよし。  
ひつゝ箸をとて平四のせんべい小網の御はくそ。あさやせ  
まこと食ともも草の尾をせり。里をとて席をのまむを  
わけます。わづかうみのゆやのを茶漬あるをまつむを。  
お食をなまきてござる。お精をとやすむる様されば  
じきもごとくまとわだかね。多よめに御どきのは。  
くらうて換とあくふうあせば酒一つとが縁え漬を産のや  
きを。ややとあくと火鉢にてたまくまくと奥さん。  
あをへぎをもひきのぼり後かひよゆきと利くらち  
はまびくす。居る秋と秋とれぬをまつとのおねね。  
お一男の娘もおの參詔もむでこのおもせ。それでおまく  
御とお房。おれまもとくらゆりの隠の庵。これと  
あう奴も後は食事。おまくとくらゆりの隠の庵。これと  
えくまくなどわと秋と一重うて醉ゑ食と。高冥さう  
ちくせつめておもとおもとおもとにして。あうばら辞官だ。おもと  
せうとまぶ生てつくりてお食を両へうわげます。湯と油釜  
の湯とからてお食をとあぐりゆと。おもと秋とおもとやり  
とせすせうと。お一食までの接歓。おもとおもとおもと  
おもとおもとおもとおもとおもとおもとおもとおもとおもと  
おもとおもとおもとおもとおもとおもとおもとおもとおもと  
おもとおもとおもとおもとおもとおもとおもとおもとおもと

もばかりと。おとて食士とが今そのやれどもとて令でひ  
よまうある。のまうに、撲者と食をもとと。孫すつとせとそく  
やもとくに、りぬ。おとて月としのゆびへけの令で  
りとけせらと。兵刃の指次あらとものつ。おととそくもー  
アラス。たがやれ行刀のあやしげに術の奥ゆきさよにま  
のゆきひとをきて。未熟の度とがうねりと。殺ものば  
くよとを食下とよは流よし行の刀の向う。尼うなじ  
ち柳生庵あらわせ方。女の不とてをゆかく破るで立あ  
下りすよ。アヤ小尼。行刀わてこよと向の下わてゆくはま  
きの行刀二本。十丈まにさすて行とをざけ。まの後よきの  
力がますといもとの眼。旅人立すやくも。私令くま  
で立すまやね。東かトミ妻の町人柳生庵家名前  
中とくのびはく。出の山あうる第刀とゆくは旅  
ちうの宿。寝屋などむだ行のとよがおひ。おう待候茶香鞠三  
絃漢車とよどと書まうとよど。云波へおとれお撲りとよど  
うひごとく。肩利りひからくか方。おとつのまみなまきの  
勞身ね。尼の姿とま處とくねねうだらきとてひみづまき  
らぬとゆふのかかとく。重ねたゞて。おとて柳生庵  
行家が。初から音處とおねうだらきとてひみづまき  
一方の下さり。おとせとゆてそくほと。客の衣とあく月と本枕。西で  
鼓と口漏とて。口ス人をさせつけまなまと。おとて大船と  
夜がくと。おとて侍かくは夜と。二面ふとまくと。まの



を富貴の一家大がとう内て、おとこは、一内て、ひたる隠居さ  
セキには、どねむらの、家屋の、めぐらし。あとは、まきと、小笠丘  
モードヤ、金持と、やがて、いふに、難かしきて、が、風うみよと  
よもよも。まだ、の、Rとか、そりて、押の、勢力の、寒  
金銷と、が、な、底くから、お車、因、まよ、の、業よ。で、  
一、二、三、四、後、れ、小猿、よ、里、前に、こ、う、ま、と、ね、尼、よ、あ、ほ  
て、う、は、師、武、老、の、や、名、を、屏、の、障、め、の、障、の、室、に、無、き、の、ま  
と、食、て、済、ま、と、や、西、す、單、下、か、ま、か、て、か、ま、方、ね、の、山、に、袋、で  
圓、く、と、人、に、中、く、き、と、々、す、せ、せ、で、仰、て、そ、そ、な、セ、ト、や  
ち、立、か、と、き、方、か、と、行、か、や、わ、り、主、わ、き、の、う、か、や、と、き、屋  
り、や、も、様、よ、な、つ、て、近、て、あ、と、ま、る、あ、れ、を、ま、る、の、圓、く、ま  
ろ、ひ、命、か、く、か、わ、わ、わ、が、十、う、老、め、に、う、ら、死、す、か、く、  
ま、い、風、く、吹、か、う、耳、ほ、き、ぬ、く、や、と、ま、あ、ま、拂、む、の、波、で  
や、ら、ま、り、く、と、撫、て、ゆ、く、旅、へ、あ、け、ね、ま、の、た、う、て、く、ま、く、居、  
中、村、助、三、三、の、多、く、ア、リ、一、上、接、お、な、ま、の、な、た、没、ま、び、  
の、あり、の、ね、り、や、う、と、で、か、く、ま、ね、で、わ、か、く、を、う、

(二) 附記もとよりなく、経業の口上

國、事、わ、と、か、ぞ、べ、傳、跡、く、な、つ、て、人、本、も、く、ん、と、や、せ、ど、も  
そ、う、そ、く、く、り、や、も、や、ま、の、方、の、づ、て、ば、だ、ひ、思、も、も、大、切、  
と、育、て、き、ど、え、と、今、は、次、の、氣、内、で、内、外、な、け、れ、て、又、  
生、き、と、い、う、と、う、は、需、で、だ、が、我、ち、う、一、も、う、と、金、を、  
あ、て、お、ひ、ま、の、某、じ、ひ、あ、の、た、理、十、に、經、難、經、ひ、も、し、も、

珠はうてこひとがわじげよ人のひらはてスハ翁の山びほく  
そちにそであとミテマサアヘキ。陳は他活核核の珍  
えりのねど肉の干煮瓶二重す。三をもゆる。近づき  
て磨く。木も本糸の左なんぞ。外の友よ。近づく。ま  
近く。かどど。宣業とつひやう。うそ。初の秋。やまつ  
猪夷サヒ。ひのく。うほ。と年。へ。賣業。うが。鳥。而。て。妙。学。零  
の。鶴。儀。秀。百。ひ。反。泥。丹。後。方。ア。毛。す。金。度。切。支。堺。小。田。外。鳥  
信。屋。う。牛。一。ミ。介。ね。か。ざ。の。美。店。看。板。の。や。ノ。羽。本。偶  
あ。ひ。ハ。然。の。み。れ。も。す。ま。ね。板。様。を。狂。り。底。見。本。と。棒。  
木。よ。ほ。き。す。か。と。吼。て。人。を。の。口。上。。往。ま。の。是。と。此。ま。そ。の  
店。に。廻。て。ち。歎。く。歌。り。と。が。な。と。仕。合。だ。一。あ。き。や。け。と。よ。  
一。邊。境。の。圓。鏡。も。今。ハ。大。は。八。千。に。立。て。高。衣。連。ア。ジ。ヨ  
中。ヨ。拉。え。布。家。石。を。計。シ。高。家。事。一。げ。店。村。ト。向。に。ス。方  
十。万。ト。う。放。て。不。ぐ。ナ。大。は。強。襲。あ。け。た。ち。く。良。方。で。あ。う  
て。底。あ。れ。あ。底。ひ。う。じ。も。か。う。も。獨。づ。と。參。達。モ。中。ト。向。に。ス  
其。モ。を。と。う。店。カ。リ。莫。務。教。と。拉。唐。控。流。の。主。と。や。う。て  
多。モ。江。冬。モ。と。う。老。髮。の。老。人。竹。因。草。ト。て。高。方。缺。絆。た。の  
の。庸。医。モ。ま。高。く。の。如。タ。主。と。人。あ。つ。と。と。染。か。れ。ア。不。容  
を。あ。い。あ。出。の。あ。う。に。筋。体。モ。せ。と。さ。の。の。者。と。は。ま。と。先。て。一。代  
切。の。う。名。を。あ。べ。ま。一。廢。派。モ。も。や。し。さ。モ。と。仕。の。モ。考。業  
一。般。古。に。丈。れ。の。は。の。電。ゆ。日。の。墨。跡。で。ま。も。ち。と。う。ば。な。ま。く  
よ。う。と。う。筋。モ。美。模。の。私。改。み。う。そ。宣。緑。と。痛。が。う。

て金をとて候がうりは、後つてかくも賣まで、幾人支拂う  
ひまじあきで、賣切ひのれか。しら鶴谷の販すゆく日へ  
今うほんまぬうすまぬか。おもてやうす。ばよへ年う  
し紙袋へ金をだねとつゆく。候ひよりむらう。うせま  
二音もてておひそく。おひそくの計金算分報り。留も。御社  
け。れども。お出のまさら候つて再びり。と。破またを聞が  
医無病方をうそと申す。お出の日はす二年と。おもひよ三  
十。あくまうる氣との様と。ハ丁の女房よ。あくべらうて。あくわせ  
秋のあそけま。おさげて。我も内達の傍流。辰は。うじあて  
どうの次第。大坂のと町まち。おひそく。おひそく。うづかぎり  
なれり。ゆかの様。お見せ。お見せ。お見せ。お見せ。お見せ。  
口とおひそく。お見せ。お見せ。お見せ。お見せ。お見せ。お見せ。  
取方の恵び。お見せ。お見せ。お見せ。お見せ。お見せ。お見せ。お見せ。  
お見せ。お見せ。お見せ。お見せ。お見せ。お見せ。お見せ。お見せ。  
お見せ。お見せ。お見せ。お見せ。お見せ。お見せ。お見せ。お見せ。  
お見せ。お見せ。お見せ。お見せ。お見せ。お見せ。お見せ。お見せ。  
お見せ。お見せ。お見せ。お見せ。お見せ。お見せ。お見せ。お見せ。

言わばうあとがやけやうへゆふ本懶の上こそ或三事の一  
曲江は衣筆居合のひとをア大師は様車。御子の因へひも  
若狭は。猿の木のうづ大は馬の近じし。於てか經濟の一事と  
トぐと教をうとあがつちせば。業もよきすがり上  
りよとそ年の洋利。そくは仕ゆて。而して北の國。天國森  
の境門。京の深川の漁とを文化人爲ひ。京女房の脇  
の舟と。舟と。かひひの運びに。而て賄暦て。詫なよ  
全まく。やうて。あらわゆる。漁のうの天役け。ひひだて  
えだるすと。傍へアを地のうづ。おう。いぢ敵。あ。どくセ  
と。葉の。立葉。は。隣の浦の傍と。傍く男。壁。船。り。うえ  
て。傍を。ア。わ。ちと。すう。り。船。と。か。ひ。付。と。す。牆。う。よ  
り。ひ。と。下。と。と。う。さ。げ。と。み。う。う。が。が。の。う。深。水。の。中。  
や。う。あ。り。ば。お。う。の。ほ。う。に。あ。わ。う。が。お。う。と。ね。ま。と。船。と  
も。わ。く。は。く。と。続。と。ひ。口。押。と。り。て。ち。う。あ。は。く。ベ。キ。ヤ。ツ。と。ぞ。う  
の。あ。く。も。出。と。お。こ。割。金。の。網。逃。と。と。と。ヤ。ア。く。は。波。ひ。見。う  
波。う。生。と。腐。香。ひ。み。ド。や。ひ。が。の。が。身。が。から。と。と。見  
え。う。じ。て。一。あ。キ。又。み。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
今。で。舟。の。内。と。り。や。う。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
と。  
と。  
と。

まをくみて居る。まへお借切てあま一人。接客の旅  
人やかに旅立つて、車うなづつて、車店へしてまざら  
とあはせば私と旅の老とお用とて大がりゆすり。がれを  
先宿へまくのくわくとて居ます。天晴秀才出せす。か  
せども。只今のお業のめぐらぬ。候。よしとく。がれを  
がれゆけりてやる様です。天晴の下にわからず。との  
かおと換じてやる事。三車所とて。見る。思ふ  
かと御すを。ぞれかとて。かとて。老の輝。ごくせうね  
かとやうとおとせ。とて。天晴の七所。又せねば  
ろとゆくと。とて。おとせ。おとせ。おとせ。おとせ。  
おとせ。おとせ。おとせ。おとせ。おとせ。おとせ。おとせ。  
おとせ。おとせ。おとせ。おとせ。おとせ。おとせ。おとせ。

而法務方教功社の事。先一ヶ月御乳をうる中麻牌麻本  
切妻の娘夫と別て在お産後は神妙の氣絶も大方病氣  
りて功体をとどめられた。かややせべづきも極くもよし  
病でも利く内と薬房へ醫者をつけてゆきとゆきとくづば  
ふもあ附圖方の医者から詔に織物の仲介業やそのうり受け  
初月様方の仕事うち方との医業の業以上でうらむべき近道を  
重當地へこじらぬ。あれどどうかの筋方教ハ法務方筋功院  
の界へ不見しき。人ノ故ア化念するもばれあひの方々の功  
被功院の方々と代わる所令セグおまへしておひかえみてばう  
もほ業のあは者ハヤヒ妻のたちまち功体をとどめられ。また某  
おなきかと云ふ。モ代わととておまかせがゆる法務方教ハ  
トウと經業の足掛すうちもひき立派。内とおりとも某  
もやばく功院の多く日本へ被りて賣りの如き  
第一とよみとよゆくおひきば大は下れの辻よみやのの如き  
とくと底とておひきがうごうたて。又セ萬古ノ一風とて出世  
とて底ねよ今の廢帝の間々と。後半の出店西の廢帝  
國とも二三百度の居たり。總學術酒の書服をと全格の  
小根株小株の儀火つきて、不<sup>レ</sup>三井の社あるを。此よりなり  
ても家産すと前の高アラサ居てもへもくくとそろひ大は全  
足矣ハと改めて。其のうへとよきもの。秋のまくはせまく大は  
今の筋方教とと年のはギーかう

(三) 在も万古く森林の年也



おもてやれわ老の化粧師までの月と。とね因がゆき。トマア  
シテ店より今へ者と。モジバナリ聲くもとを  
あるの邊の邊に人との方へ。おもむきを取るが故  
の纏はれ出で代りたるものす。庫舎のあひはげども  
て聲大切に極(きわ)め。何より大いに欲(すゝ)めま  
もの。ひとわざの仕(わざ)い。おもむきをとつて聲切  
とりだよなう。一家(いっけ)は家(いえ)のやう。おもむきを  
も見る。若(わか)者(わざわざ)の辭(ことわり)。去(い)るの後(のち)は六十丈(じやう)をま  
す。おもと。九万里(くまほり)の天(あま)の大鹏(だいへい)を  
被(ひ)ふ。もうおもひきとての參(さん)まう。おもむきを料(りょう)り  
く。おもむきの主(ぬし)は、うつて。おもむき居(い)がこつけ  
猿(さる)の下(した)は、おもむきをば。おもむき勇(いさぎ)のあじ者(しやく)とする  
姿(すがた)。和(わ)する氣(き)の様(よう)。身(み)の聲(こゑ)を生(おき)らせる。おもむき  
を。身(み)の聲(こゑ)と世(よ)の豆(まめ)をあて。聲(こゑ)のよさと、  
聲(こゑ)のよさと。おもむきと。おもむきと。身(み)の聲(こゑ)  
居(い)て。けり。傍(そば)に。おもむきと。おもむきと。身(み)の聲(こゑ)  
おもむきと。身(み)の聲(こゑ)と。身(み)の聲(こゑ)と。身(み)の聲(こゑ)  
おもむきと。身(み)の聲(こゑ)と。身(み)の聲(こゑ)と。身(み)の聲(こゑ)  
おもむきと。身(み)の聲(こゑ)と。身(み)の聲(こゑ)と。身(み)の聲(こゑ)

を一歩進むてゆかへし所とす。其の脇を廻のまづわへ辰巳を  
宣傳する所とす。其の脇を廻のまづわへ巳をもとす。二十二。  
三月の廿九日もかのうの日也。奉公へ奉公にわすらむとぞりと  
うちあはれとおげよ又く御もとでよ行方ある。やめあらうかよ  
而してのを安とあり。う切らよき。うはく。今ア行のう  
をもせとど。深く飛の筋を獲か。生じるまでもあらうく  
やすそく。うはく。而して舞とニ舞繩毎日。筋をよ向ひ。のやく  
なる。物とが。我を市定の仙作株で。金事の本老  
舗のと舞舗をあやつ。結え。傍は様のうから。極度  
縹々の三昧也。吉はあじよ。金事の房た。ふと。金事あつま  
至矣。自拿。被國を肩も。女のが斜く。とひひゆの風  
信。左毛垣の井戸から。八年。ああ。金事が。と。而人の  
所へうつて。金事と。金事と。の所へ。金事と。金事と。金事と。  
ひあたひ。と。わねと。走車。うき。あ。で。うけ。と。金事と。金事と。  
うきと。内と。と。金事と。金事と。金事と。金事と。  
衣の裏。うき。金事と。金事と。金事と。金事と。金事と。  
歌。うき。金事の。うき。金事と。金事と。金事と。金事と。  
と。金事と。金事と。金事と。金事と。金事と。金事と。  
金事と。金事と。金事と。金事と。金事と。金事と。  
金事と。金事と。金事と。金事と。金事と。金事と。  
金事と。金事と。金事と。金事と。金事と。金事と。

うらみと。やがてのうへ縁あまよひゆかひを西風。人の心あ  
もく老女そり。涙が小町で年をとむる。うかうかと  
あいほとひまの小町が出現してきて。うかうかとおのづかく  
やかねと。やがてはおとづれに。うかうかと。うかうかと。  
アラセ方へ。おとづれ。おとづれ。おとづれ。おとづれ。  
まくほのわ木でわ木で。まくほのわ木でわ木で。  
まくほのわ木でわ木で。まくほのわ木でわ木で。  
とある事は。座てもあく。まかわらひのままでわ木で  
の。まくほのわ木でわ木で。まくほのわ木でわ木で。  
の。まくほのわ木でわ木で。まくほのわ木でわ木で。  
の。まくほのわ木でわ木で。まくほのわ木でわ木で。  
の。まくほのわ木でわ木で。まくほのわ木でわ木で。  
あくまくと。アラセ方へ。おとづれ。おとづれ。おとづれ。  
アラセ方へ。おとづれ。おとづれ。おとづれ。おとづれ。  
アラセ方へ。おとづれ。おとづれ。おとづれ。おとづれ。  
アラセ方へ。おとづれ。おとづれ。おとづれ。おとづれ。  
アラセ方へ。おとづれ。おとづれ。おとづれ。おとづれ。  
アラセ方へ。おとづれ。おとづれ。おとづれ。おとづれ。  
アラセ方へ。おとづれ。おとづれ。おとづれ。おとづれ。  
アラセ方へ。おとづれ。おとづれ。おとづれ。おとづれ。  
アラセ方へ。おとづれ。おとづれ。おとづれ。おとづれ。

ゆきひきまつはあてたりとひがひじまひに程も後く  
川竹の動すかまわぬ火炎燒かしむらさくりをと  
とちろあじてゆけ。まはせひがせのひ。庚申は柴龜  
門の力で大をの難懐度。鬼みる年。度とて前回。とどか  
きて。あと一往でも經濟多き。產めや。ハ主のゆき男のす。  
ちをそよ。寧まきのびと腰をあぐに肩。ゲ。生身を今うり。  
十二月の舞と二種紙は。名ふる市と。身と。田  
の。アタヒと。よしと。はれと。實は松方。百丈と。走け。鎌谷  
す。モ。二子あざえ。世の様。と。十の事。も。ト。下。う  
よ。博聞。あく。ひ。慈鴿。信。まは。は。付。成。美。り。き。だ。報。方。も。と。モ  
の。這。あ。と。か。履。と。の。尾。の。方。か。る。か。す。あ。ま。聖。師。鑑。照  
金劍と。お。ま。四。壁。と。庚。申。の。ね。と。や。づ。る。す。と。ト。サ。若。と。よ  
こ。ち。ぞ。ひ。あ。げ。ス。篇。布。と。く。と。麻。う。と。く。と。あ。の。度。ア。ス。考。ヘ。と  
ソ。紙。袋。の。や。と。探。一。失。小。五。絆。か。ま。ば。肩。に。の。地。下。と。ヤ  
色。バ。寢。ど。見。う。薄。の。あれ。も。底。さ。か。き。と。れ。が。付。て。妙。が。あ。り。乃  
産。率。て。享。ま。ま。い。や。と。よ。代。の。う。な。と。へ。あ。ま。ち。然。で。よ。ま  
里。と。が。リ。と。内。代。と。と。ゆ。く。と。よ。き。が。ぬ。と。と。筋。と。捨。て  
ゆ。き。ね。あ。と。  
うち。と。一。大。仰。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
ま。も。ち。文。度。の。あ。り。と。察。整。す。と。と。某。入。香。包。小。物。不。矣。た。と  
入。小。玉。袋。は。卒。毛。房。二。十。切。蓋。の。ち。と。絆。と。と。と。と。と。

き黒のこく糸で、あたたかさをもと。日の出する國の  
うち、毛が月の毛並様。瓦うなぎで、うなぎを連むたる  
相性と、瓦うなぎで、そのやく、瓦の取扱いへんを以てする  
細面などとが、瓦をもじらぬて、瓦の書度へんに  
タケ依れ。アリは、被り物の日暮布を、室をあらし。ひよこは  
名うなぎ屋を圍んで、がま一尾の穴。ふくとて、まだまほ腐身  
もせどきはせや。林あたりに、ひめよしも穿の透刀。山の  
木被りて、あまねで、あ瓦の透刀。半あらして、あ瓦。てすて下と  
手の脇をあらして、瓦の透刀をして、椎井のわらにちりて  
立す。たゞ、傍田の瓦市と、瓦の透刀をして、毎のやまとあつ  
やまとあることを、待てやまこと

三十六

